

人間科学研究科 博士後期課程 1回生 中村正ゼミ 安發明子 64512100021
キーワード：親をすることの支援、子ども家庭福祉、子どもの権利、虐待予防

Soutien à la parentalité 「親をすることの支援」はフランスの子ども家庭福祉分野で中心的な概念枠組みである。

連帯保健省は「家族、親をすること支援デスク」をおき、「親をすることの支援」国家戦略をたてている。

家族の持つ資源と子どもの置かれた環境についてまず働きかけをおこなう。
親が直面している困難を理解すること、そして状況に適した安心して利用できる支援を紹介すること、
紹介だけでなく実行し親が教育的責任を全うできるよう支える。

研究結果 1 研究によって見えた子ども家庭福祉の構造(図：安發)

第一次予防 妊娠期～16歳 全ての子育てを専門職がサポートする。
産科、保健所、3ヶ月から保育、3歳からの義務教育それぞれに専門職が配置されている。
家事育児専門員の定期的な派遣等

「心配がある」場合、家族の同意もしくは司法判断によって

「危険がある」場合、子どもの状況が確認できない場合、予防的支援のいずれもが有効でなかった場合
95%が子ども専門裁判官による命令。

第一次予防 全ての子育てを専門職が見守る

記事「[「人」の利用と注釈方式](#)」

図は安發作成、写真と絵は在宅教育支援事務所、家事育児支援ホームページより

第二次予防の在宅教育支援を質的調査。
内容と価値や概念を表す会話や資料の記述を抽出している
在宅教育支援事例（集中プラン）

子どもを叩いたことのある父と在宅教育支援ワーカーの最初の面談のフィールドノート (抜き書き)

父：私の育った国では子どもが悪さをしたら叩きます。子どもは友達に噛み付いたり問題がある。
 ワカー：私たちは人のしたことを良い悪いと判断する点に違いがあるのではなく、今後子どもたちにとってより良い状況になるよういるのです。
 父：仕事帰りに学校に迎えに行き、家へ帰ると驚かされて怒りにまぎれることがある。
 ワカー：この両親を手伝うことで、この両親が子どもを手伝うのを手伝います。
 父：子どもがより良い状況にならうに親子関係、夫婦関係の改善について助けてください。これまで難しい状況しかりませんでした。私と同じ人生を子どもには関わらせたくありません。私はいつも一人で苦しんできました。
 ワカー：親をする人と世の中での一番大変な職業だとご存知ですか？全ての親が間違えることともあります、大事なものは他の方法を探すことです。
 父：(泣く)
 ワカー：何かを変えるのは勇敢なことです。これまでの人生の歩みと希望をもとに生きていけるようにです。自分が叩かれて育った、他の方法が知らなかった、愛していたから謝りたい、もっと違う父親になれるようになりたくて言葉で伝えてください。その結果を次回報告してください。
 父：「悪い対応」を指摘するのではなく「良い対応」をしていけるようサポートする

45家族分の担当職員インタビュー、会議や面談の記録、資料といったデータを分析中。たくさんの言動や記録文書の中から価値や概念をどのように抽出していくことができるか試行錯誤しながら取り組んでいる。